



あ

る冒険家が「このまま行けば遭難する、というのわかる。でも、どこで引き返せばよいかはわからない」と何かに書いていた。ずいぶん前に読んだが、この言葉が強く心に残っていて、時々浮かんでくる。遭難を一つの比喩として読めば、生きていれば何度か遭遇するだろう逢魔の時をうまく言い表しているようにも思える。

塾を開塾したのが七月、ちょうど二年前だ。算数塾に落語教室を併設するから担当してくれ、と言われて数カ月のあわただしい準備の後、暑い盛りにオープンした。算数なら需要もあろうが、落語教室に人なんぞ来るものかと高をくくり、のんきにかまえていた。薄給とはいえ何もしないで給料をもらうことなど寝覚めが悪くてしかたないから、算数の手伝いをしたり、塾の通信をせつせと書いたりして過ごしていた。七月八月と落語教室にはだれも希望がなく、それ見たことか、という状況だった。石の上にも三年というぐらいだから、そこまで辛抱してみて、だれも来ないようだったからあきらめよう、と塾長と話していたら、九月に二人入った。

落語教室の存在などだれも知らないから、寄席の依頼などあるはずもなく、二人の落語がさまになつてきているのに発表の場がないでは情けないので、落語を

やらせてもらえるところを探した。ようやくに見つかったのが某デイスリーブスで、最初の寄席にこぎ着けたのが十一月。初めての依頼で寄席をしたのが明く一月。その時は教室生五人になっていた。それから、ひと月かふた月に一回の割で寄席の依頼が入るようになった。もちろん営業努力の末だ。

さて、ちょうど開塾二年となった現在、教室生は十八名となり、寄席はほぼ毎週末となり、一日に二つ入るのも珍しくなくなった。ぼくの方からの営業もしばらくしていない。寄席の数は増えたが、子どもたちは出たいときに出ればよく、決して無理はしない。これも人数がいるからこそだ。ただ、ぼくは座付き作者としての雑事があるから、寄席のすべてに出向かなければならず、稽古の要請にも応じなければならぬ。ぼくの一日は、この半年ですつかり変わってしまった。

どこかで限界がくるのはまちがいない。すでに越えてしまっているのかもしれない。そこがわからない。断りやいいだろうって話だが、落語をやってみたいと思ねてくる親子があれば、どの子にも経験させたいと思いい、うちの集まりに来てほしいと請われれば、どうにかして断らずに済む方法はないか、と考えてしまう。こうして危ういかどうかも定かでない二年目を過ぎたのである。

老い老いに
木幡智恵美

43

「(前号の続き)ことに、テロ事件では百十階建ての世界貿易センタービルに旅客機が突っ込む場面を捉えた映像は、映画の世界では見られるにしても、現実のものとは信じがたいものだった。次々と報道がなされ、巨大ビル倒壊の様子や被害に遭った人々の様子が映し出されると、背筋がぞくぞくとしてきた。知り合いが巻きこまれたのではないかと、学生時代の友人の顔が浮かぶ。もし、アメリカが報復行動を起こし、戦争にでもなったら：日本も巻き込まれるようになったら：と、次から次へと不安がよぎる」

衝撃的な事件で、同号にはM・Iさんも、「飛行機の影が吸い込まれるようにしてビルに突入、爆発炎上する映像を見ながら、僕はふと、二か月ほど前に見たアメリカのテレビドラマ『7デイズ/時空大作戦』の一シーンを思い出していた」で始まる『漫画道楽記』を寄せている。テロ事件から二日後のこと、新聞に掲載された事件に関しての『識者座談会』を読んでいた僕は仰天した。そこには核兵器によるテロを懸念した上で『スーツケース型の核兵器が四十〜五十個、旧ソ連で紛失したと言われている』と書かれていたのだ。もしこれが本当なら、『第四の核』は実在した、いや今現実はこの世に存在することになる。今回の首謀者は、アメリカ軍による大規模な報復を当然予想しているに違いない。ならば、その報復に対して、さらに何らかの策を持っていると考えられないだろうか。近い将来、どこかの国の米軍基地周辺二キロメートル以内で核爆発が起きる。これが、臆病者の取るに足りない妄想であつてくれることを願うのみだ」

M・Iさんや私だけでなく、世界中の人々を震撼させた同時多発テロ。あれから四半世紀、今の世界情勢はというと、あちらでもこちらでも紛争が起り、一触即発の状況も各所で見受けられる。わが国の動きも不穏だ。先日は馬毛島と周辺の島の人たちの現状を報道しているテレビ番組をちらつと見た。記者を入らせない馬毛島の建設現場。一体どういう施設になるのだろうか。今朝の新聞にはオスプレイの佐賀空港配備の記事が載っていた。国民が反対しようが、静かに着実に軍備が進んでいる。予測できない未来が足音を忍ばせて近づいてきている。

30代フリーター 格差の広がり、社会の分断、偽情報の流通などを指して、民主主義の劣化ということが言われている。

年金生活者 民主主義は国家による富の再分配を討議と多数決によって決めるシステムだ。その再分配機能が低下している。それに対する国民の期待、それを制御する民主主義への期待もおのずと低下する。選挙の投票率は長期低下傾向に陥り、再分配は民意全体を反映しない偏ったものになる。

再分配機能の低下の直接の要因は少子高齢化だ。参院選が与野党によるバラマキ合戦になったのは、バラマキで一時しのぎをするしかないほどこの機能にほころびが広がっているからだ。

高齢世代の年金、介護、医療の需要が増大し、現役世代の社会保険料の負担が重くなった。高齢者のあいだではサービス低下への不安が、現役世代のあいだでは負担の不公平感が広がっている。それを立て直す有効な案をどの党も持ち合わせていないことを国民は知っている。

産業資本主義が利潤の主要な源泉として必要とするのは、レベルにあまり差がなく、農村から都市への移動が可能な労働力だ。民主主義の平等の思想は等質な労働力の、平和主義は移動の自由な労働力の再生産をあと押しする役割を果たした。

モノづくり中心の産業資本主義から、モノをつくらないポスト産業資本主義に移り始めると、民主主義は「自由」および、それを土台にした「多様性」と結びついた。産業資本主義が利潤の源泉として等質な労働力を求めたのに対し、ポスト産業資本主義はイノベーションを利潤の主要な源泉とする。イノベーションは「自由」で「多様性」な発想からしか生まれえない。グローバルゼーションはそれを求める資本の運動でもあった。

だが、いま「自由」と「多様性」は大きな反動に遭遇している。移民を規制し、DEIを敵視し、大学を圧迫するトランプ政権はその最大のものである。30代 ギリシャの経済学者やニス・バ

少子高齢化とならんで、国家の再分配機能への期待を低下させたもうひとつの要因は、GAFAMなど巨大IT企業がネット空間に築いた大規模な再分配システムだ。それらの企業はプラットフォームと呼ばれるそのシステムを通じて、大量の情報、動画、SNSなど、数えきれないほどのサービスを無料で提供する。ただし、「無料」というのはカネのやり取りがないというだけで、ユーザーはプラットフォームを利用するごとに自らの個人情報を提供している。GAFAMはその膨大なデータをもとに、それぞれの好みに合いそうな広告をひとりひとり狙い撃ちするように流すことができる。それを武器に自社の製品やサービスを売り込むとともに、他企業の広告にもそのシステムを提供し、巨額の利益を得ている。GAFAMは国家に匹敵する規模の再分配システムを貨幣以外の交換手段を使って築いた。それが国家の再分配機能のウエートを相対的に低下させ、それを止められない民主主義への

不信を広げた。30代 GAFAMの築いた再分配システムは、利用者が何も口出しできない非民主的なシステムだ。

年金 戦後の日本を振り返ると、民主主義はその扱われ方が変化してきたことがわかる。最初は戦争と飢餓からの脱出の手段として、次に平和と繁栄の維持装置として、そして現在は危機に陥ったシステムとして。

高度経済成長が始まってまもない1960年の安保闘争では、民主主義は平和とセットで主張された。高度経済成長がピークに達した1970年前後の全共闘運動では、民主主義は自由と結びつけられた。そして低成長が続く現在、民主主義は以前ほど頼りになるものとはみなされていない。

1980年代ごろまでの日本の資本主義は第2次産業を牽引車とする産業資本主義の段階にあった。物質的な富の増大が急進し、みなが等しく貧しかった社会に娯楽や教育を享受できる豊かさをもたらした。

ルファキスの『テクノ封建制』は、資本主義は封建制にあと戻りしたと指摘する。その封建制は農地ではなくネット空間に築かれ、彼はそれを「テクノ封建制」と呼ぶ。民主主義は劣化どころか、死滅したか瀕死の状態にあるという宣告に等しい。

ニュース日記 977
中村 礼治

民主主義の劣化とは何か

バルファキスによれば、資本主義では生産手段（工場、機械など）を所有する資本家が労働者を搾取するのに対し、テクノ封建制ではGAFAMなど巨大IT企業がネット空間に築いたプラットフォームという名の「クラウド封土」を所有し、それを利用するユーザーを「クラウド農奴」にして搾取する。

封建領主と化した巨大IT企業は、プラットフォームの利用者から、その属性や行動傾向など個人情報や「地代」として徴収し、広告配信を通して収益化している。プラットフォームへの商品の出品者やアプリの開発者からは手数料という名の「地代」を取る。自由市場による価格競争はなく、資本主義の必須の要件を欠いているというのがバルファキスの見方だ。

年金 「テクノ封建制」が「テクノ資本制」に移行するには、かつて産業資本主義の興隆を促した土地の囲い込みや市民革命などに匹敵する変化が必要であることが条件となる。